文書分類番号	00	09	03	002	永年	起案	平成	年	月	日	決裁	平成	年	月	日
議長	副議長	局長	次長	主査	主査	担当								文書取扱主任	

第 21 回 総務文教常任委員会 会議録

開催年月日	平成21年3月30日(月曜日)	開会15時02分	閉会17時15分
開催場所	第一委員会室		
出席委員	本間、三上、窪之内、関藤、大谷、井上 委員外議員～清水	事務局	中嶋事務局長 田湯次長
欠席委員	なし		寿崎主任主事
説明員	別紙のとおり		
議 件	別紙のとおり		
議 事 の 概 要	1 所管からの報告事項について		
	次の事項について所管から説明を受け、質疑を行い、報告済みとした。		
	(1) 男子中学生飛び降り事件について		
	2 その他について		
	なし		
	3 次回委員会の日程について		
	正副委員長に一任することに決定した。		
	上記記載のとおり相違ない。 総務文教常任委員長 本間保昭 ㊞		

平成21年3月27日

滝川市議会議長 中 田 翼 様

滝川市長 田 村 弘
滝川市教育委員会委員長 若 松 重 義

総務文教常任委員会への説明員の出席について

平成21年3月26日付け滝議第194号で通知がありました総務文教常任委員会への説明員の出席要求について、次の者を説明員として出席させますのでよろしくお願いします。

なお、公務等の都合により出席を予定している説明員が欠席する場合がありますので申し添えます。この場合、必要があるときは、所管の担当者を出席させますのでよろしくお願いします。

記

滝川市教育委員会委員長の委任及び滝川市長の委嘱を受けた者

教育長	小 田 真 人
教育部長	高 橋 一 昭
教育部指導参事	早 瀬 公 平
教育部学校教育課長	吉 川 修
教育部学校教育課副主幹	杉 原 慶 紀
教育部学校教育課心の教育推進室長	水 林 俊 治
教育部学校教育課心の教育推進室主査	丹 那 暢 仁
明苑中学校校長	高 野 清 志
明苑中学校教頭	松 井 正 明

(総務部総務課総務グループ)

第 21 回 総務文教常任委員会

H21. 3. 30 (月) 午後 3 時 00 分
第一委員会室

○ 開 会

○ 委員長挨拶 (委員動静)

1 所管からの報告について

《教 育 部》

(1) 男子中学生飛び降り事件について

2 その他について

3 次回委員会の日程について

○ 閉 会

第21回 総務文教常任委員会

H21. 3. 30(月)15:00
第一委員会室

開 会 15:02

委員動静報告

委員長

全員出席。委員外議員～清水。北海道新聞、朝日新聞、毎日新聞、NHKの傍聴を許可。

1 所管からの報告事項について

教育長

(1) 男子中学生飛び降り事件について

3月5日に起こった事件について10日の総務文教常任委員会と24日の当該中学校現地調査に参加をいただきありがとうございます。これまでの部分や現地調査のときの資料における意見に対し、検討、検証を続けたものを手元に配付している。本日は19時より当該中学校において保護者説明会を予定している。きょう配付している概要と書かれた資料と保護者説明会で配付する資料の違いは、はじめにという部分を校長のあいさつの中で触れることにしており、この部分の記載がないものになっている。またおわりにという部分については、別な形で文章にしたものを配付することになっている。概要の経過等についてはこれまで話をしているとおりだが、保護者説明会に使う資料については保護者の意向もあり、両生徒にかかる記載についてはかなり省略をしている。どの時期からどういうことがあったのかという概略のみの説明ということで予定をしている。

吉川課長
委員長
窪之内

(別紙資料に基づき説明する。)

説明が終わった。質疑はあるか。

① 家庭訪問を希望制にした経過について伺う。江部乙小のときに問題点として出されていたことだが、自殺した子の家庭訪問を行っていなかった。そして今回も飛びおりた子の家庭訪問を行っていなかったということである。学校訪問のときにも言ったが、全教師がこの問題点を認識していなかったのか。全生徒の家庭訪問を行わなかったのはなぜだったのか理解できない。保護者の勤務状況などは別にして全世帯を家庭訪問するというのが教訓の1つだったと思う。どういった場で希望制を決定していったのかその過程や希望制家庭訪問の実施状況、生徒の割合がわかれば伺いたい。また希望制にする最終決定が校長にあったのであれば、校長は江部乙小の教訓をどのように感じ、決定することになったのか率直な気持ちを伺いたい。

② 情報の共有についてだが、これも江部乙小のときの教訓だった。すべてにおいて記録化が行われていなかったのか。それとも問題によって記録をしていたのか。記録をして情報を共有する範囲はどうだったのか。今回いじめた子たちの問題行動について記録化していなかったというのはわかるが、すべての問題行動に対して全く記録保存しているものはないのか。その辺の状況について伺いたい。

③ こういうおどしや恐喝を含めたいじめの原因が何だったのかが報告されていない。いろいろな不満があったのか。相手の子がどうこうということではなく、ただ自分の気持ちをぶつけるだけの対象だったのか。いじめ行動に発展していった原因についてどのようにとらえているのか伺いたい。

④ 2日間の暴力行為に至った原因についてはどのようにとらえているのか伺いたい。たまたま先生がその教室にいなかったということだった。2日間もそこにたまたまいなかったということなのか。その状況をほかの生徒は目撃していたのか。目撃していた生徒たちはそのことについて先生に知らせていない。どのくらいの生徒が目撃している中でいじめが行われ、なぜだれもとめることをしなかったのか。その辺の状況を知りたい。

⑤ 24時間の相談電話を設置したが、来なかったというのは自分の悩みを訴える相手、場所として信頼されていないということである。そういう意味では、今夜の保護者説明会において保護者の信頼を得るために自分たちの学校集団の反省をすべきだと思う。そうでなければなぜそういう問題が起きたのかわからない。問題点はたくさんあるが、江部乙小の教訓が生かされず、また同じ問題が起きた根底は何だったのか。そこを率直に保護者に話をしないと信頼は得られない。子供も同じである。いろいろな指導をしようとしているが、信頼される教育委員会、教師、学校になるためにはその辺の反省など訴えるものがないとダメだと思う。その辺をどのように考えているのか伺う。

校 長

① 私は江部乙小の事件当時からいた。非常に大きな事件であり、これまで学校の安全、安心、命においては絶対何があっても守らなければならないという気持ちでいた。子供たちのそういう見えない部分をどうしたらいいのかということを考えながら学級運営や生徒指導をやってきたし、校長としてもそういう気持ちで進めてきた。江部乙小の事件について先生方に伝える中で十分に共有できない部分があり、私自身校長としてのリーダーシップを含めて厳しくこの問題を受けとめている。特に家庭訪問についてはいろいろな意見があるが、子供と親、学校と担任とのかかわりの中で希望制について悩みもあった。江部乙小の問題を十分に伝え切れなかったという中でずるずると来てしまった。平成16年度に希望制に変わったと聞いている。その当時授業日数の確保を含めたいろいろな課題があったと思うが、それは私が来てからも続いていた。平成20年度の反省の中で、学校と家庭との連携においてこれではいけないということで先生方からも声が上がって、来年度からは全生徒の家庭訪問をやっていこうというときにこういう事件が起きた。弁解がましいが、江部乙小のときの大きな課題を十分に伝え切れず、校長のリーダーシップの不十分さをおわび申し上げたいと思う。

② 担任からの聞き取りによれば、9月に教育相談をやっており、そこでは元氣よく、いじめられている様子はみじんも感じなかったということである。また学校祭が終わり9月から10月にかけて学級役員改選や班編制があるが、そこでも非常に仲のよい人間関係だと思っていた。本人からも周りからもそういう状況が見られなかった。結果からして細かなところを考えたときに反省すべきところもあり、その辺は今後に生かしていきたいと思っているし、記録化や情報の共有については非常に不十分だったと反省している。子供同士のトラブルなど思春期特有の状況もあるが、その中でこれはいけないという部分については指導を加え、記録をしながら、こういった問題をどうするか学年部会や生徒指導部会を含め話し合いをしながらやってきた。まだ足りない部分もあったと思うが、記録、共有を図りながらやってきた。

教 頭

① 今年度の家庭訪問は4月20日ころから10日間でやっている。割合は1年生が8割から9割、2年生は5割から6割、3年生は2割から3割である。

③ いじめの原因についてだが、春休みに入り、毎日の電話や2回目の家庭訪問を迎え、生徒と向き合い保護者とも話をしている。またスクールカウンセラーも入りやっている。なぜこういうようないじめをする心になっていったのかまだ明確になったものはないが、春休みのうちに反省はもちろん、新年度に向けてその反省をどう行動していくのかということを中心にやっていきたいと考えている。

④ 2日間の暴力行為についてだが、そのとき先生はいなかった。2つの教室を担当しており、コンピューター室はそれほど汚くない。もう一部屋のほうは常時使うような教室なのでそちらのほうにつきっきりでいた。生徒は班に分かれて掃除をしているので、その班の生徒は目にしている。今回のアンケートや聞き取り調査の中でも見たということだったが、教職員に伝わらなかった。生徒と教職員の信頼というところが反省の部分であり、問題点である。どのような対策を立てていくのかを考えなければならない。

⑤ きょうの保護者説明会では私が説明することになると思うが、反省の立場に立ち、私だけではなく全職員が考えたこの対策案を頑張っって進め、信頼される学校を取り戻すことについて話をさせていただこうと思っている。

① 教職員の皆さんにとって今の時代の教育は物すごく大変だと思う。そういう大変な苦勞を知っている上で質問させていただく。家庭訪問についてだが、現校長が来る前から希望制になっており、平成20年になってからこれはどうなのかということでも話に出てきたということだが、今までどの教師からも意見が出なかったということはどういうことなのか。本当に全教師から平成20年になるまで家庭訪問の希望制についての異論は出されなかったのか。当時江部乙小の事件後の報告書を読んでいた教師はどのくらいいるのか。その辺の確認をされているのか。また江部乙小の事件後にこの教訓についてこれからこうやって進めていこうというような何らかの研修会というものは行われていなかったのか。

② 家庭訪問は4月20日から10日間くらいということで行うということだった。希望制にしたのは父兄の共働きなどいろいろな勤務状況があるからということだが、先ほど言われた割合は、設定された期間以外でも保護者の希望があれば家庭訪問をやった上での割合なのか。学年が進むにつれてだんだんその割合が低くなっており、2年生では半分くらいである。教師と親とのかかわりの場は家庭訪問だけではないが、春がだめであれば秋にやるなどそういったことについて全く考えてこなかったのか。3年生は3者懇談があるので家庭訪問とは違った形での学校対応があると思うが、その辺について伺いたい。

③ 情報の共有化について伺う。今回いじめていた子は問題行動を数々起こしていたが、それらのことはきちんと記録されているのか。学年部会、生徒指導部会の資料として残されているのか。それともその指導をした結果について全く残されていないのか。

④ なぜこういった行動を起こしたのかはまだ明確になっていないということだが、話をする中ではわかっていると思う。ただそれは家庭のことだったり、公にしないほうがいいということもあると思う。言葉として何も報告されないのはどうしてなのか。その辺のことはまだ話していないということなのか確認をしておきたい。

⑤ 2日間にわたる暴力行為を班の生徒は目にしていたが、先生に知らせなか

ったということはわかった。ただだれもとめに入らなかったのかどうかということについての報告はなかったので、その辺を伺う。今まで目にしたり耳にしたりした生徒たちから、何か情報や話を聞いているのではないかと思う。一般的には傍観者もいじめた側としていいのではないかという議論もある。そうした子供たちの心情など何か語られているのではないかと思うので、その辺についても伺いたい。

校 長

② 平成16年からいろいろな形の中で、時数確保をしながらやってきた。家庭訪問は5日間で行っている。5時間目の授業が終わってから家庭訪問のために全担任が出て行くということになる。当然勤務時間を超えながらやらなければならないし、夜10時に家庭訪問をすることや家庭訪問期間以外にも要望がある。家庭訪問の希望制にかかわる話は水面下においてないわけではなかったが、職員会議等においてはなかった。ただいろいろな議論をする中で子供の理解や家庭との連携を考えたときにやはり家庭訪問をしたほうがより親と教師との関係が改善されるだろう。そしてそれは行く行く子供にかかわってくるだろうということで本年度の反省をする中で次年度への方向が出された。遅きに失しているという部分が指摘されたらそのとおりでと思う。

① 江部乙小の教訓についてだが、校長会や教育委員会でいただいた資料についてはプリントしたり、口頭で伝えたりしていた。向かい合う心の問題や道徳をどうしていくのか、あるいは講師を呼んでどうするのかということについては先生方も動いているところである。研修などやらなければならないことがいろいろあり、それを進めていく中で家庭訪問については意識のどこかに埋没していった部分があると思うので、それは率直に反省しなければならないと思う。ただいろいろと出された話題については先生方と共有できるようにしながらやってきているのが実態である。

③ いじめた子の記録については積んでるが、今回の部分の接点は見えなかった。この部分が見えなかったのは非常に残念に思っている。

教 頭

② 家庭訪問は10日間なのか5日間なのか混乱したと思うが、10日間の設定の中で実際に5日間か6日間で行っているとらえていただきたい。家庭訪問の実施状況についてだが、だんだん少なくなっている。2年生から3年生は持ち上がりなので、保護者のほうから2年生のときに家庭訪問を行ったから3年生では遠慮するというようなこともあり、減っていると考えられる。

③ いじめた子の問題行動の発生、状況、結末までの記録はある。ただ担任がファイルしているために全教員が見ることのできる状況ではなかった。そこが問題の部分だと思う。

④ いじめた子の原因や胸のうちについてだが、憎いなどこれというはっきりした理由はない。

⑤ 見ていた生徒たちがとめに入ったとは聞いていない。傍観するのはだめなことだという指導が足りなかったと考えている。

委 員 長

答弁は簡潔にお願いしたいが、明確な答弁でないのが困る。私から若干質問をつけ加えさせていただく。家庭訪問に対する先生方の心情や学校の苦しみなどを話されていたが、他校ではやっているのになぜ明苑中ではできなかったのか。校長としてはそこを明確に押さえなければならない部分だと思う。もう少しわかりやすく答弁願いたい。江部乙小のいじめがある直前に希望制となり、その後すぐにそういったことがあったにもかかわらず全生徒への家庭訪問をしてい

なかった問題点を明確にすべきだと思う。みんながそう思っていて20年度には考えていたが、間に合わなかったという説明では学校改善につながらないと思うがいかがか。

校 長

江部乙小の事件が平成17年に起きた段階で、その辺を十分踏まえた校長としての決断や指導ができなかった。この点については大変申しわけなく思う。

窪之内

校長だけを責めているつもりはない。小学校のことについてはプリントをして回したということだが、後は教員である。あのときは何も記録されているものがなかった。今回は担任などは記録をしていた。それを共有して全教職員の力で解決できなかったということが、教訓が生かされていないということである。教師一人一人がその教訓をどのように受けとめていたのか。この事件が起きてから改善対策委員会をつくってやろうとしていることはいいが、教訓の受けとめ方がどうしても納得できない。今話されたような言葉で説明しても保護者は納得しないと思う。自分がその辺のことをどう受けとめていたのかという率直な本音をきちんと言わないと表面だけでは納得できないと思う。私は納得できない。教職員というのはそれなりの能力を持った方たちなので、江部乙小の報告書を理解する能力をきちんと持っている。その持っている方たちが、なぜこのようなこともできないのか不思議でならない。校長のリーダーシップを発揮できなかったからだけではないと思う。そういう点で答弁できることがあればお願いしたい。

校 長

学校全体、教職員一人一人がどう受けとめたのかということについては指摘のとおりだと思う。本当に反省を踏まえて取り組んでいたのかが問われるところである。私自身の力不足も含めながら学校全体の中で反省をし、今後それを生かしていくという面で、保護者説明会でもおわびをしながら理解を得たいと考えている。言葉として足りないと思うが、本当に申しわけなく思っている。

窪之内

受けとめ方が足りなかったのか、それとも江部乙小という特殊な地域だと思っていたのか。恐らく私たちの学校とは違う特殊な地域の中で起きた事件であり、そこはそこの教訓だろうという受けとめ方があったのだろうと思う。不十分だったという率直な気持ちを言ってくれないとすっきりしない。意見である。

委員長

先ほどの家庭訪問の件でもう少し聞かせていただきたい。校長の責任なのでごめんなさいと言って退職されてもだめである。なぜこのようになったのかを明確にする必要がある。全生徒の家庭訪問について他校では取り組んでいたのに校長が気がつかなくてそのことに対し号令をかけられなかったのか。それとも号令をかけたけれども先生方が納得しなくてできなかったのか。もしかしたらそのほかの原因もあるかもしれない。そういうことを明確に答えていただきたい。指示が出せなかった。向かい合う心といういろいろな取り組みをしている中で家庭訪問にかかわる意識が抜けてしまい号令をかけられなかった。校長として至らない面があったことを反省している。

校 長

委員長

他に質疑はあるか。

大 谷

① 江部乙小の教訓のもとに、スクールカウンセラーや相談員が配置されたが、子供たちはそれをどのように利用していたのか。改善の対策として、校内生徒指導担当者とスクールカウンセラー、相談員等の指導連携の確認と検証ということが書かれている。また明らかになった問題のところでは、指導体制の中に位置づけることができなかったとある。その辺は日常どのような関係にあったのか伺う。

教 頭 スクールカウンセラーや相談員の利用も特定の生徒に限られている。入れかわり立ちかわりたくさんの方が利用するという形ではなく、いつも特定の生徒の何人かが利用して話をしているようである。スクールカウンセラーと相談員をつなぐ役割として私がいるわけだが、私とスクールカウンセラーと生徒というような関係でとどまっていた。主に不登校の生徒が利用しており、今回のようないじめ関係の生徒に目が届かなかったのは私の考えの及ばなかったところだと思っている。

大 谷 江部乙小の事件が生かされていたとすれば、2日間パソコン室で暴力行為を見た生徒が担任に言わないとしてもカウンセラーにはこういうことがあったと伝えることはできると思う。それを不登校の生徒たちだけにしていたというところもかなり手落ちだったと思う。広めなかったのは教育委員会で配置した心の教育に関する指導員としての利用の仕方という点で少しお粗末だと思う。教頭との関係についてだが、相談内容には非常にいろいろな問題を含んでいるのでそれが担任に知られると生徒が相談に来なくなるケースもあると思う。そういうことも懸念されて担任まで話が伝わらないのか。そういった問題というのは担任と密接に連携し合っていないと問題解決につながらないと思う。例えば不登校についても何が原因でそうなったのかということをおさめていたというのはどういうことなのか。内容的にそれでおさまるようなことだったということか。

教 頭 私が知り得た情報をとめておいたということではなく、生徒、担任、私、カウンセラーという4者を取り次ぐ情報は流している。生徒指導部会に流しているときもあるが、生徒の関係しているところだけ流している。なかなか明確に答えられなくて申しわけない。

委員 長 もう少しわかりやすく質疑、答弁願う。

大 谷 スクールカウンセラーや相談員を配置した理由というのは、江部乙小の事件を受けて子供たちが持っている悩みや知っていること、直接言えない部分もそういった関係の人には言えるということもあり配置していると思う。24時間の相談電話もあるが、日常的な活動の中でそこにかけるまでにはなくても自分の学校に来てくれる相談員には話せるというように、そういう機会を広げてあげるような働きはされていなかったのか。

教 頭 スクールカウンセラーの役割どおりそういう生徒については話をしており、悩みを相談していた。

大 谷 始めの答弁では不登校の生徒たちの利用が多かったと言われていたが、今回のような問題行動にかかわる相談についてはほとんどなかったということか。

教 頭 主に不登校の生徒だった。つなぎ役の私がいじめにかかわる生徒たちに広げたり、いじめに気がつかず、そこに着目しなかった。

大 谷 今後はそういうところについても、みんなに広げて働きかけをしていくということにとらえてよいか。学校だよりや校長の話の中で、何かあればこういう相談ができるということを随時伝えていけば、問題があったときには相談してみようかなと生徒たちに広がっていくと思う。そういった取り組みが大事だと思う。

校 長 スクールカウンセラーや相談員の紹介は年度当初に行っているが、それ以外にも随時紹介を兼ねて広げていきたい。スクールカウンセラーはどちらかというと不登校の対応が多いが、かつてはそれ以外のことについて扱ったこともある。

場所の問題もあると思うので、生徒たちが利用しやすい状況を設定したいと思う。これまでは広がりの部分が足りなかったと思う。

大 谷 校長 そういったことを随時話していただき、生徒たちがそういう状況にあったときに相談しようと思えるような環境づくりが大切だと思う。今後は相談室をもう1カ所ふやす考えもあるようだが、だれがそこに入っていったのかわからないような配慮もしながら設置してもらいたい。

大 谷 校長 学校の構造上、2階に3年生、3階に1年生、2年生という形になっている。1年生と2年生は年齢も近いこともあるので、3階に相談できる部屋を設置したい。

大 谷 校長 そういった相談の先生以外に担任と相談したいとか指導部のあの先生と相談したいというようなとき、その先生は部活やいろいろな会議などで忙しいかもしれないが、日程調整して聞いてあげられるような体制はできているのか。

大 谷 校長 教育相談、定期相談、3者相談等あるが、定期相談はほとんど担任とのかかわりである。相談カードのようなものをつくり、ほかの先生と相談したいことがあるかなどを聞く中で担任以外にも広げていく必要があると思う。そういう部分を強化していきたいと思う。

大 谷 校長 出てきた問題について指導部や全校的なものにしなければならないときには、朝の報告などで行い、共有できるような体制はとられているのか。

大 谷 委員長 している。

大 谷 委員長 他に質疑はあるか。

大 谷 委員長 さっきいじめた子供たちの情報の共有化はしていないと言っていた。それは全校に広めることではなかったということなのか。全体で認識しなければならない出来事と認識しなくてもいい出来事はどこで分岐されていたのか。

大 谷 委員長 答弁についてだが、事実関係を基本に答弁してほしい。取り組んでいたが、十分に効果を発揮できなかったということなのか。それともやっていなかったということなのか。これは違うことである。そこをあいまいにしないで答弁していただかないと意味がわからなくなってしまう。

大 谷 委員長 先ほどの答弁を訂正願いたい。情報の共有化の体制をとっていると答弁したが、不十分な点があったため今回のような問題に気がつかなかった。

大 谷 委員長 他に質疑はあるか。

大 谷 三上 ここではっきりしておきたい。まず教育委員会に伺う。定期的に校長会が実施されているが、そこでは学校のいろいろな問題について情報共有しているのか。

大 谷 三上 毎月、定例の中で行っている。

大 谷 三上 校長に伺う。教師に対して明確な号令をかけられなかったとのことだが、その背景にあるのは何か。校長自身の資質なのか。それともそれを取り巻く環境なのか。いずれ校長は退いていなくなる。ところがその背景が根本の原因ならばこれからも続くことなので、はっきりしておきたい。

大 谷 三上 校長 私の指示を含めて十分なリーダーシップを発揮しなかったのが問題である。

大 谷 三上 校長 では角度を変えて質疑する。教師の組合加入率はどのようになっているのか。

大 谷 三上 校長 管理職を除いた教職員25名中7名が非組合員であり、そのうち2名は臨時採用である。

大 谷 三上 校長 組合加入に関することが背景ではないのか。確認しておきたい。

大 谷 三上 委員長 それが背景ではない。

大 谷 三上 委員長 他に質疑はあるか。

- 井 上 私は最初、暴力を振るわれたり、お金を取られたりしたので自殺をするというメールを送って飛びおりたと聞いている。江部乙小のときには遺書を手紙、自殺を事故と置きかえて話を進め問題を矮小化したが、これは明らかに遺書だということになった。私は今回自殺未遂だと思っているが、事件という表現をすることで何か違うものなのか。本質的に矮小化するような感じに聞こえるので、教育委員会ではその辺をどのようにとらえているのか伺いたい。
- 委員 長 事件という表現でよいのかという質問か。
- 井 上 報告をするときに何か問題があるのか。
- 教育 長 加害、被害の関係があるということから事件ということ整理をしている。自殺未遂という表現については、保護者の方が十分留意してほしいという意向があったので、そういう表現を使っていない。
- 井 上 江部乙小の遺書を手紙と言いかえたときのように本質的なとらえ方をきちんとしなければだめだと思ったから質問をした。保護者がどのような意向なのかかわからないが、きちんと見つめなければ解決ができないのではないかと考えている。意見である。
- 委員 長 他に質問はあるか。
- 清水委員外議員 ① いじめの実態把握について伺う。今年度学校としていじめは何件と把握しているのか。加害生徒が何人で、被害生徒が何人なのか。どのように把握して、それを市教委にどのように報告をしているのか。またファイルでの共有化がされていないということだが、職員会議等でこういったことがあるという話や談話、報告など口頭での共有は行われてきたのか。
- ② 今回の加害生徒に関しては成人グループがかかわっており、車で送り迎えしてもらっていると聞いている。単に生徒だけによるいじめというより非行グループ、非行成人とかかわった中での事件ととらえる必要があると思う。そういう点においてどこまで踏み込まれたのか。また当時この被害者について気づかなかったということだが、加害生徒がほかで起こしていた問題については記録がされていたということである。学校外のグループとの関係について学校、担任として把握をしていたのかも伺う。
- ③ 今回の調査結果に対して被害者、加害者の保護者の理解はどこまで得られたのか。
- ④ この調査報告書は最終のもので、道教委や関係機関にこの状態で配付されるのか、それとも素案的なものなのか。この位置づけを伺う。
- ⑤ 道教委の関係だが、職員に対する懲戒処分はいつごろ行われるのか。
- ⑥ 今回の調査報告書は非常に浅いものだと思う。これしかできないということであれば、もっと水準の高い専門家を入れた調査が必要だと思う。これについて教育長の考えを伺う。
- ⑦ 今回、調査途中という重要な時期に大幅な人事異動が行われた。市教委においては心の教育推進室長、指導参事、指導主事が教育委員会外に異動であり、主要メンバー全員が異動した。しかも学校においては校長が退職で、担任が異動である。継続したのは学校教育課長が心の教育推進室長になると教育長だけで、今後の調査継続について言えば実際には物すごく障害になる。責任を持った総括、調査ができるか甚だ疑問である。教育長の考えを伺う。
- 教 頭 ① いじめの実態についてだが、3月6日の最近のアンケートにおいてはいじめられていると答えた生徒は7名で、その生徒は特定されており、解決してい

るが、指導中というものが1件ある。口頭での共有についてだが、気づいたことがあれば職員室でやっている。

② 成人グループの関与について聞き取り調査をした段階では全く出ていないが、他校との問題はあった。

③ この調査においては被害者、加害者の保護者の理解を得ながら慎重にやっている。

教育長

⑤ 道教委の懲戒処分がいつごろなのか、懲戒処分に該当するか否かということについてだが、事故報告書のまとめがなければ提出できないので、私どもとしては今回示した報告書をもとに教育委員会の対策を含めて、あすにでも道教委に報告を出したいと思う。これまでは随時情報を出している形なので、このような形で正式な報告をしたいと思っている。教職員の責任に至るのか至らないのかということについては道教委がそれを見てから何らかの協議になると思う。

④⑥ 専門家についてだが、私どもは事件直後から道教委の指導主事を入れてやっている。先ほども言ったように何が原因だったのか根底の部分についてももう少し掘り下げが必要だろうと思っている。ただそれがまた新しい報告書になるのか、これが中間報告書になるのかという整理は内部的にはまだしていない。さらなる分析は必要だと思っているので、それについては報告書という形になるかわからないが、委員会等でも随時必要があれば示していきたいと思っている。

⑦ 人事異動の関係についてだが、最終的な報告責任は私にあるので、人事異動に伴う障害が出ないようにするのが私の仕事だと思っている。そういう意味では遠い地に行くわけではないので、連絡を取り合いながら対応をしていきたいと思っている。また吉川課長は江部乙小の事件のときにもいたので、そういった意味では心配ないと思っている。

清水委員外委員

① いじめの実態把握についてだが、3月6日については事件後の話である。聞きたいのは事件最中にどのような把握をしていたのかということである。江部乙小の事件後、平成19年2月に出されたアンケートでは、どの学校を見ても非常に共通した数字が載っており、約17%の児童生徒がいじめられた経験があると答えている。その3分の1はいじめが続いているとのことだった。つまり6%の児童生徒のいじめが継続しているということである。この中学校は450人なので、二十五、六人はいないとその調査が不十分な調査ということになる。いじめの実態把握というのは、アンケートをとってその結果をそのまま受け取るのは非常に甘い考えである。なぜこのような低い数字になるのだろうかということから始まらなければならないと思う。そういう姿勢でやってきたのか伺う。

② 今回は調査報告書ということではなく、一時報告書とすべきだと思う。調査の浅い報告書を道教委に出し、委員会へはどうするかわからないというような答弁である。私がお校生とのかかわりと言ったのは、非行グループである。これは非行グループとのかかわりがあるいじめというとはらえではなく、非行である。いわゆる犯罪だというとはらえになっていないような報告書では道教委に出せるものではないと強く思うが、考えを伺う。

③ 人事についてだが、それでできると思っていることが甘い考えだということよりも身のほど知らずだと思う。担任がいなくなる。学校長がいなくなる。

室長、指導参事、指導主事の主な関係職員の全員がいなくなる。このような人事異動をしておいて3月30日の報告書で終わりというのは、被害生徒と保護者に本当に失礼な教育長の態度だと思う。教育長の考えを伺う。

校 長

② 加害生徒と非行グループ、成人グループとのかかわり云々という話があったが、今回の一連の流れを分析した中で、そういったグループとのかかわりはないと押さえている。

① いじめの実態把握の関係だが、12月にいじめのアンケートを市内各学校でやった。本校については今もいじめられているというのが27人である。件数にすると35件である。

教 育 長

② 今回の報告書は男子生徒の飛びおり事件にかかわる報告書である。この調査のアンケートや聞き取りにおいては、他校生徒や成人グループとの関連はなかったという理解をしている。これが犯罪か否かについては私どもが判断するものではないと思っている。

③ 保護者に対し失礼な態度に当たるのかということだが、私どもの気持ちとしては、新年度に新しい生徒が入学する中で明苑に通わせたくないという声も届いているので、在校生も含めて安心して学校に来ていただくために、今回の事件を踏まえて明苑がこれからどう分析をして何を変えていこうとするのかを早い時期に明らかにする必要があると思っている。事件の背景云々ということについてだが、確かに事件の経過がしっかりととらえられなければ対策も講じられないのではないかという話もあった。そういうことも踏まえてさらに聞き取り調査やアンケートを実施して、早く対策を立てられるものについては立てて、それを保護者の方に理解をしていただき少しでも安心して4月の始業式、入学式を迎えたいという思いで作業を進めてきたところである。そのことについては被害側の保護者の理解もいただきながら進めてきた。私としてはまず多くの保護者の方に安心していただくのも学校や教育委員会の責務だと思っている。そう思っている態度が保護者の方に失礼だと言われるのであれば、また別の話だと思う。私はそういう気持ちであり、きょうの説明会の開催については教育委員会としても同意をしているところである。

校 長

① 再度先ほどの答弁をさせていただく。数字の関係だが、12月に行った滝川市いじめアンケートの返却は48件あった。その中で現在もいじめられているというのが27人。いじめられていないというのが21人である。48件のうち特定できたのが35件、特定できていないのが13件である。35件については解決できている。13件が未解決である。

清水委員外議員

私の質疑の背景について言わせていただく。先ほど解決していないいじめは1件という答弁があったが、非行グループがおり、他校とのつながりもあるので今回のことを調べるだけで調査ができたとは思わない。ほかの被害生徒において言えば、他校とのつながりもあるような大がかりな非行がありながら、現在1件と把握をするような不十分な理解なのか。あるいは表面的な基準で1件となっているのか。実態と把握の数字、また教育委員会の報告の数字に開きがあり過ぎる。私はこの中学校の現在3年生の女子生徒がかかわるいじめの問題で当時の教頭にも会っている。ことし卒業される3年生でいじめが原因で1年半不登校になっているが、一度も教頭先生が来てくれなかったという男子生徒も知っている。あるいは現在2年生のいじめ問題の相談を受けているが、それは担任がいろいろやってくれているので私も学校には言っていない。またもっと

大きなこともあった。そういった中で学校の先生は大変な状況だが、解決できないで苦しんでいると思う。何とかしたいが解決できないという中で結局今回発見してあげることができなかったのだと思う。この子のことよりもっと大きな事件がたくさんあったから、その対処で先生方は大わらわであり、ゲームセンターに見に行きたくても見回りにも行けないということがあったのだと思う。本当に忙しくてこういった問題に先生方が対応できていないというのが発見できなかった今回の大もとの原因であり、直接的な原因でもあると思う。校長が私の責任だと言っているが、実際には違うと思う。今の実態はそのくらい大変だと思う。その辺を校長はどのように思っているのか。

校 長

学校では多様な課題を抱えているがいろいろな形の中で解決していく。本校で大がかりな非行グループがあるように指摘されたが、私としてはそういった認識は全くない。今回の件に関しても背景にそういう非行グループがいたり、校内に非行グループがいて、その生徒たちが一緒になってやったとは受けとめていない。校長の認識が甘いと言われるかもしれないが、私たちもいろいろな中で調査をし、校内を回って子供たちの様子を見ている中ではそういう実態がないと押さえている。またいろいろな問題や苦しみをかかえている子供たちに対しては、先生方も忙しいとは思いますが、その中でもやらなければならないことがあるし、子供に何か大変なことがあれば夜中でも走っていかなければならないこともある。当然そういう中で動いており、多忙な部分はあるが、やるべきことはやっていかなければならないと思っている。

清水委員外議員

議会と校長の認識を一致させてからでなければ、きちんとかみ合う議論にならないと思う。特定はしないが、少なくとも3人のグループが、暴力や金品要求、ばしりをさせるといったことをほかの児童生徒に対してもやっていた。それをやめさせられなかったというのが今回の原因である。ほかの子のときにやめさせていれば、今回起きなかったことである。先生たちはなぜほかの子に対する暴力行為などをやめさせられなかったのか。一生懸命やったがやめさせられなかったのか、それとも先生たちの指導がされていなかったのか。そういう部分をきちんとこの報告書に入れるべきだと思う。その点について校長はどう思っているのか。

校 長

今回の件については、9月の段階で教育相談をしている。その中で本人は部活動を含めて非常に前向きな姿勢が見られた。特に本人からの訴えもなく、学級で後期に向けた班編制においても仲がよく、一生懸命に掃除をやっているという認識があった。確かにいろいろな面で部活動を休みがちだったことなど私たちも悔やまれる。問題は私たちの情報の共有が不十分で見直しを図らなければならないということである。

清水委員外議員

ほかの生徒に対する問題のことを聞いた。質疑とかみ合っていない。

委員 長

加害生徒はほかの生徒に対しても行っていたのかどうかを先に確認する。

教 頭

問題行動はあり、指導はしているが、今回の事件を調べる中で同様なことがあったとは確認できていない。

委員 長

指導歴についていろいろと表現されている部分もあるが、その問題行動において相手はいなかったのか。今の答弁では不思議に感じる。答弁確認のため休憩する。

休 憩 17:09

再 開 17:10

- 委員長
教 頭 再開する。
いじめていた子には問題行動があり、相手もいたが、その都度指導しており、その都度解決していた。
- 清水委員外議員 その都度という表現なのでこの加害者の何人かが別の生徒に対してもいじめをしており、1回や2回、1人や2人ではないということだと思ふ。そしてその都度解決していたという認識が全く理解に苦しむ。解決していないから繰り返すのであり、今回も繰り返してしまったということである。解決できなかったから先生方を批判して、先生方が原因だと言っているわけではない。何度も指導したが解決したと思っていたという認識は別にして、何回も繰り返すということは先生方も何回も指導をして努力をしてきたはずである。それでもこういうことが直らないというのであれば、先生方のどうしたらいいのか、何とかしてほしいという気持ちが管理職や教育委員会に対して訴えとしてあつたはずである。逆に管理職や教育委員会から見て、何とかしてあげたいという気持ちもあると思う。その辺がどうだったのかということを経理や教育委員会から伺いたい。
- 早瀬指導参事 現場の苦勞を代弁していただいたように思う。しかし、そこでとどまっていたのではこういった問題を解決できない。他の関係機関や他の力を借りるといった発想が必要になってくると思う。スクールカウンセラーや教育相談員などの活用ということも言われているとおりに、担任や学年の先生だけで抱えているということ自体が硬直化していく原因である。これもまた江部乙小の事件の教訓でもあつたのではないかと思っている。
- 校 長 私どもも若いころは、指導しても結果が出ないと指導ではないと言われた。そのとおりで思う。そういう中でさらに考えなければならぬのは、そういう子をどういう形の中で関係機関と連携をとりながらやっていかなければならぬのかということである。中にはここだけでできる部分、家庭だけでできる部分があるのかもしれないが、やはり今後育つて社会に出て行く子供たちをどうしたら立派に出せるのかという視点に立ちながら関係機関の力を借りながらやっていきたいと思う。やらなければならないと認識している。
- 委員長 他に質疑はあるか。(なし)
- 委員長 (1)について報告済みとする。
- 委員長 **2 その他について**
- 委員長 何かあるか。(なし)
- 委員長 **3 次回委員会の日程について**
- 委員長 正副委員長に一任いただくことでよいか。(よし)
- 委員長 以上で第21回総務文教常任委員会を閉会する。

閉 会 17:15